

**令和8年度**  
**社会人選抜(B日程)**  
**文化学科**  
**[文化総合系(夜間主コース)]**  
**小論文**  
**問題・出題の意図・採点評価基準**

令和8年3月12日

高知県立大学

問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（配点 100点）

以前、私が住んでいたマンションからは、隅田川にかかる永代橋が見えました。

永代橋というと、思い浮かぶことがあります。あの有名な赤穂浪士は、今の墨田区両国にあった吉良宅で吉良上野介の首を切った後、歩いて品川の泉岳寺まで向かいました。

このとき、永代橋を渡ったという記録があります。となると、その後、近くにある新高橋を渡って、こんなルートで巡ったのだろうか、などと想像することができます。

当時は幕府の目もあるから、町人たちはおおびらに赤穂浪士たちを讃えられませんでした。

ただ、心の中では、「よくぞ、主君の仇を討った。立派な侍だ」と感動していたでしょう。

ただある書物によると、皆が遠回しに見ていたなかで、永代橋のたもとにあった茶屋の主人だけが「よくやった！」と大声で讃えながら、浪士たちに甘酒を振る舞ったという記録があります。そして、その子孫のほうはいまもその場所に住んでいるのだそうです。

いったい、何の話をしているのだろうか、と思われたかもしれません。

私は、「考える」こと、すなわち「マイ・ストーリーを語る」ことは、歴史を知ることに近いのかなと感じています。

何も考えずに、目の前にある東京の町並みを、道を、坂を、川を眺めていても、深みやおもしろさを見つけ出すのは難しいでしょう。

しかし、かつてそこで何があったかという、歴史の事実を知識として知り、そこにいた人たちはどんな感情を抱いたのだろうか、などと想像して、考えてみる。

すると、何でもない当たり前の景色が、突然、ふくよかな情報と感情をもって立ち上がり、さまざまな情景が見え、人々の息吹が感じとれるようになる。

これまでとはまったく「違う景色」が見えてくるのです。

それはとてもワクワクする、知的好奇心をくすぐる行為であり、極めて教養深いことであり、あらためて自分の、自分たちの進むべき指針におけるヒントを得られることにもなります。

私が皆さんにお伝えしたいのは、そんな当たり前の景色が意味を持ったものになるコンピタントなものを見方、考え方です。

それは、実に楽しく、人生を豊かにする術でもあるのです。

出典：竹中平蔵『考えることこそ教養である』クロスメディア・パブリッシング、2021年（出題の都合上、出典の文章を一部改変した。）

注：

赤穂浪士 幕府の高家・吉良上野介の邸宅を襲撃した赤穂藩の牢人。元禄 14 年（1701 年）に江戸城中で赤穂藩主・浅野長矩が吉良義央（吉良上野介）に斬りかかり、長矩は切腹、赤穂藩はとりつぶしになった。翌年に赤穂藩の牢人らが吉良邸を襲撃し、義央を殺害した。

コンピタント competent 有能な

問 1 課題文を踏まえ、ある場所で何があったか知らない人には「見えない」、ごくありふれた景色の事例を 1 つあげ、かつてそこで何があったかを示すとともに、その景色を「見る」ことでどのような意義があるか 300 字以内の日本語で説明してください。

（配点 50 点）

問 2 課題文には、旅行に関しても、比較的狭いエリアに収容力を超える人々が訪れる「オーバーツーリズム」に翻弄されずに済むヒントが示されていると考えられます。このことに対するあなたの考えを 300 字以内の日本語で説明してください。

（配点 50 点）

<出題の意図>

問 1 課題文の内容を正確に読み取っていることを踏まえ、それにかかる適切な例を提示するとともに、自らの考えを的確に表現することができているかどうかを見る。

問 2 課題文の内容から派生した現代的な問いかけについて、課題文の内容を援用し、解答に結び付けられているかどうかを見る。

<採点評価基準>

問 1 次の点を見て評価する。

(1) 課題文の正確な理解に基づき、適切な具体例をあげながら論述できているか（読解力、知識・理解力）。

(2) 上掲 (1) の具体例に対し、論理的に表現することができているか（論理的思考力、文章表現力）。

問 2 次の点を見て評価する。

(1) 現代の社会的問題について関心を持ち、それについて考えているかどうか（知識・理解力）

(2) 課題文の内容を活かし、解答に結び付けられているかどうか（論理的思考力、文章表現力）。